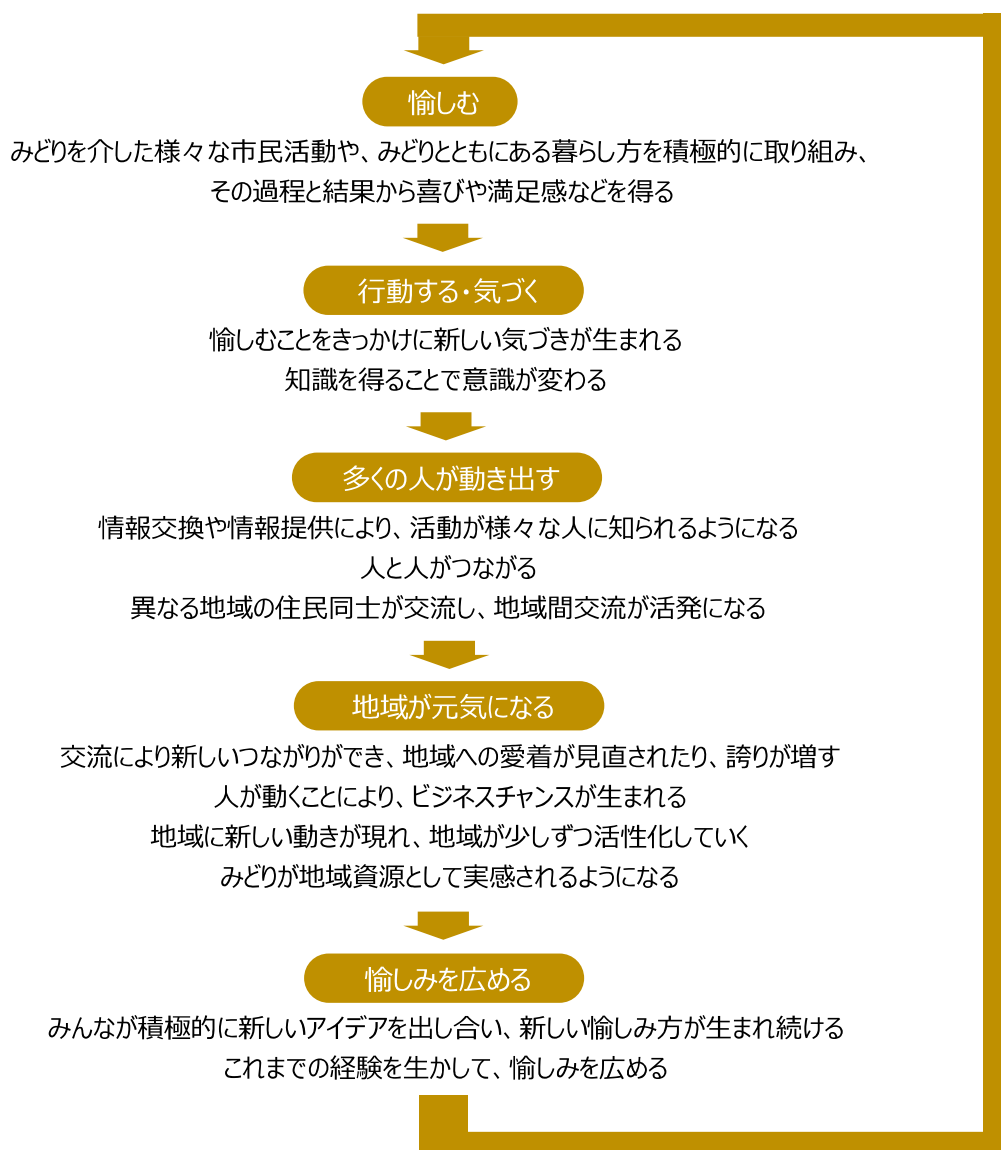


# みどり生活編

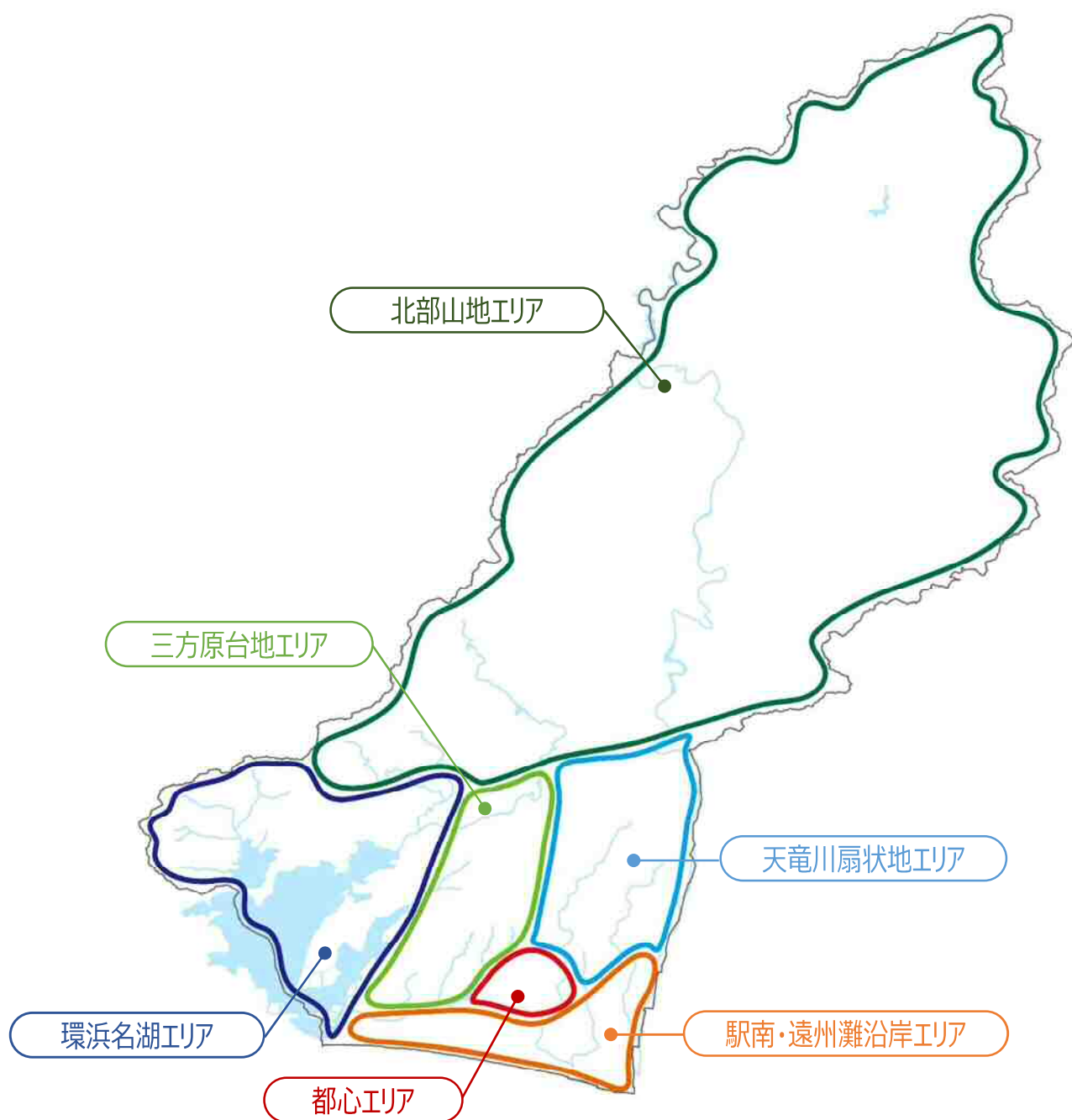
# 1 「みどり生活を愉しむ」とは

- 「みどり生活」とは、みどりを介した様々な市民活動や、みどりとともにある暮らし方のことであり、こうした活動や暮らしに積極的に取り組み、その過程と結果から喜びや満足感などを得ることを「みどり生活を愉しむ」と捉えています。
- みどり生活を愉しむことで、新たな気づき生まれ、行動を促進し、それによって多くの人が動き出し、地域が元気になることを見据えています。そして、元気になった地域では、新しいアイデア、新しい楽しみ方が生まれ続け、持続可能なまちづくりにつながります。
- つまり、「みどり生活を愉しむ」（プライベートアプローチ）ことは、「みどりによってまちづくりの課題の解決に貢献する」（パブリックアプローチ）につながり、そして、本計画の目指す姿『みどりによって持続的に発展するまち・浜松 みどり生活を愉しむ、暮らしもまちも豊かな浜松へ』の実現につながります。



## 2 みどり生活の愉しみ方

- 本市は、JR 浜松駅を中心とした都市的機能や先端技術産業が集積する都市部、都市近郊型農業が盛んな平野部、広大な森林を擁する山地部、さらには、漁業が営まれる沿岸部までと、全国に類を見ない地域の多様性を有しています。こうした地域の多様性と、本市のみどりとみどりに関する取組の多様性から、みどり生活を愉しむ舞台が整っています。
- ここでは、豊かな自然環境と地域の多様性を踏まえ、北部山地、環浜名湖、三方原台地、天竜川扇状地、都心、駅南・遠州灘沿岸の6つのエリアに分けて、みどり生活の愉しみ方を紹介します。
- ここで紹介しているみどり生活の愉しみ方には、既に市内で行われているものと、今は行われていないものの、こんな愉しみ方をしたいという意見があるものがあります。皆さんも、自分に合った愉しみ方を見つけ、ぜひ暮らしの中に取り入れてみましょう。



## 北部山地エリア

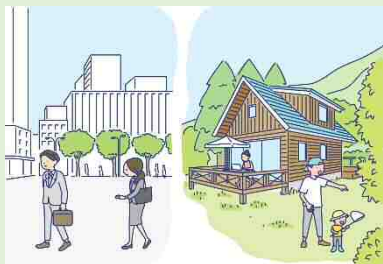
### 森林資源を使って大きなパンケーキづくり

- 天竜の林業体験ツアーに親子で参加。林業従事者から天竜の歴史を聞いた後、間伐や枝打ちを体験。暮らしの中にある木材が、長い時間と林業従事者の苦労の上にあることを体感する。
- 子供たちは、森の中といういつもと違う環境で遊んだ後、森林資源を使って焚火を起こし、絵本に出てくるような大きなパンケーキを焼いて、みんなでおいしく食べる。
- みどりの豊かさを実感し、まちへの誇りや愛着が生まれる。



### 浜松市内で二地域居住

- 天竜で空き家を購入し、別荘としてリフォーム。月曜から金曜までは都市部で過ごし、金曜日の夜には、家族と天竜の別荘へ。晴れた日は畑で野菜の手入れをしたり、川で魚釣りをしたり、屋外でテレワークをしたり、雨の日は雨音を聞きながら読書をしたり。
- 浜松の豊かな自然環境と地域の多様性を感じられる二地域居住を実践。
- 浜松でしかできない豊かな暮らしの中で、生きがい生まれる。



## 取組紹介

## Kicoro の森

○「Kicoro の森」は、「木のこころ」という意味から名付けました。天竜区の観音山の山麓・石神地区の山林を整備しながら、林業従事者である「きこり」としての立場・視点を大切に、各種ユニークな森林体験プログラムや技術講習会の開催などを行っています。また、木の持つ生命力や森林の価値などを広く伝えていくため、クロモジ茶の生産・販売、食をテーマとした活動への参加・連携など、山と街をつなぐ活動を展開しています。

- ▶「保育所きこりのおうち」の遠足の受け入れ
- ▶静岡文化芸術大学の学生と連携した古民家リノベーション「もりのりの」の開催
- ▶木材の伐採からデジタル工作機械を使ったものづくりまでを体験する「FUJIMOCK FES」
- ▶絵本から着想した巨大なパンケーキづくり など



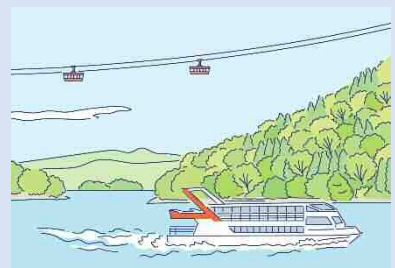
■大地の再生講座

★前田剛志さん（KICORO の森 理事）

## 環浜名湖エリア

### 遊覧船で浜名湖クルージング

- 東名高速道路浜名湖 SA から遊覧船に乗って浜名湖クルージング。浜名湖の観光スポットを湖上から眺める感動クルージング。
- 浜名湖から新川を通過して佐鳴湖へ。水を身近に感じながら、浜名湖やウナギの養殖など、浜松の歴史を学ぶ。
- 浜名湖から浜松の魅力を発信し、関係・交流人口が増加、賑わいが生まれる。



### 環浜名湖サイクルツーリング

- 浜名湖ガーデンパークを起点に、自転車に乗って浜名湖を一周するサイクリングに出発。途中、自転車を降りて釣りをしたり、海の幸やミカンを食べたり、温泉に入って休憩したり。週末を使ってゆっくりサイクルツーリング。
- サイクルツーリングを通じてできた仲間たちと毎春に開催される浜名湖サイクルツーリングにも参加。
- 浜名湖や周辺のみどりを楽しみながら、健康づくりや趣味を楽しむ人が増加する。



## 取組紹介

## NPO 法人はまなこ里海の会

- NPO 法人はまなこ里海の会は、観察会や放流会の開催、地産地消イベントへの出展等を通じて、浜名湖の水産資源と貴重な自然環境を守り、その魅力を伝えていく活動を行っています。
- また、多くの人に浜名湖の生態系の土台であるアマモ場を知ってもらい、保全するため、アマモ場観察会を実施しています。さらに、浜名湖の自然の多様性を実感していただくため、海苔摘み、海苔漉き体験会や館山寺温泉観光協会と協力して浜名湖 SA 遊覧船や館山寺サンビーチでの地引網を展開しています。

★窪田茂樹さん（NPO 法人はまなこ里海の会 事務局長）



■出張授業  
「浜名湖の自然について」



■浜名湖アマモ場観察会



■海苔摘み・海苔漉き体験会

## 三方原台地エリア

### 子供たちの農業体験

- 地域の幼稚園・保育園や小中学校に通う子供たちは、連携している農家さんのところで、収穫だけでなく、1年を通じて農業体験を行っている。
- 育てた野菜等は学校給食などにも使用され、地産地消を実感している。
- 地域の特徴を生かした環境教育が行われ、こうした環境で子供を育てたい、学ばせたいという家庭が増加している。



### 市民農園と畑 DE マルシェ

- 耕作放棄地を活用して整備された市民農園・体験農園は、利用希望者が多く、とても人気がある。農園利用を通じて、新しい仲間、コミュニティができる。
- 定期的に行われるマルシェでは、農園利用者が育てた野菜を販売することもでき、本格的に農業をやりたい人も出てきている。
- 生きがいでだけでなく、新たなコミュニティも生まれ、地域のつながりが広く、強くなっている。



## 天竜川扇状地エリア

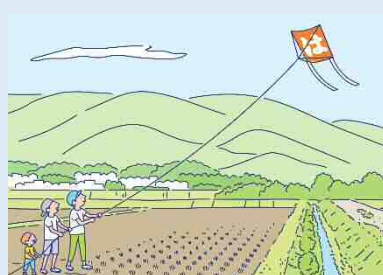
### 田んぼで泥リンピック

- 田植え前の田んぼで泥リンピックを開催。泥の中を走って旗を取る田んぼ・フラッグス、泥んこサッカーや泥んこドッチボールなど、全身泥だらけになりながら子供たちは思いっきり遊ぶ。
- 泥遊びを通じて子供たちの五感が磨かれ、生きる力の基礎となる。



### 田んぼで昔遊び、生き物探し

- 稲刈りを終えた田んぼでは、家族で凧揚げや竹とんぼ、稲わらで小屋づくりなど、親と子が昔遊びや生き物探しなどをして遊んでいる。
- みどりを活用した地域ならではの遊びが次の世代へと引き継がれていく。



## 都心エリア

### 市民協働による花飾り

- JR 浜松駅北口広場、アクト通り、鍛冶町通りにおいて、都心にふさわしい、美しい景観をつくるため、四季折々に花が咲く花壇を市民協働により実現している。
- 生物多様性の生態系の一つとなるような花壇、市民が自宅での花壇づくりの参考にできるような情報発信性を持った花壇となっている。
- エリアごとに個性を持った花壇がつけられ、コンテストもあり、盛り上がりを見せている。
- 観光客も含めて多くの人が行き交う場所であり、花飾りを介した交流も生まれている。



### 公園リニューアル

- あまり使われていない公園について、地域住民が集まって使い方を考える。
- 遊具は要らない、絵本の読み聞かせをしたい、フリーマーケットを開きたい。色々なアイデアが飛び出し、みんなで使い方を考えて、市に要望・提案。
- リニューアルされた公園は、地域の、みんなの庭として愛されている。また、自分たちの声が地域づくりに反映されたことがきっかけとなり、多くの住民がまちづくりに関心を持っている。



## 取組紹介

## 万斛庄屋公園メイキングプロジェクト

- 平成 22 年、室町時代から続いてきた庄屋屋敷跡地（旧鈴木家屋敷：浜松市東区中郡町）が地権者から市に寄付され、万斛庄屋公園として整備されました。
- この公園を、子供から高齢者までみんなの居場所となる公園にしたい！地域の様々な課題解決の場として有効に活用したい！とこのプロジェクトを立ち上げ、浜松市で初の地域住民発の公園づくりに取り組んでいます。
- これからは、公園が地域の課題を共有・解決する場として、地域住民が公園の潜在力を見つけ、使いこなしていく時代です。明治期に建てられた母屋等の建物群を残して活用できるよう、市と協議しながら再生に向けて広く市民の皆さんに寄付やアイデアを募っています。また、このプロジェクトを通して、建物群の再生や子供や高齢者を対象とした様々なイベントを行い、多くの人のつながりを育んでいます。



■万斛庄屋公園のイメージ図

★木村智子さん（NPO 法人浜松 NPO ネットワークセンター 理事）

## 駅南・遠州灘沿岸エリア

### ビーチ・マリンスポーツの聖地

- 遠州灘では、ビーチバレーやビーチサッカー、ビーチラグビーなど、様々なスポーツを楽しむことができる。
- ビーチ・マリンスポーツの国際大会も開催され、飲食も楽しみながら観戦。
- 国際交流も生まれ、ビーチ・マリンスポーツの聖地として、都市ブランド力の向上につながっている。



### 校庭でスポーツ鬼ごっこ

- 解放された小学校のグラウンドで、話題のスポーツ「スポーツ鬼ごっこ」を開催。
- 子供だけでなく、大人も交じってスポーツ鬼ごっこを行い、子供が勝つこともしばしば。
- 学童に通う子供たちは放課後も学校グラウンドで元気に遊び、保護者も安心して預けられる。



## 取組紹介

### 南区役所をジャックして遊ぼう！

- 本市では、市民協働の考えのもと、市民と区が一体となって地域の課題を解決したり、地域の魅力を活用したりすることで、住み良い地域社会の実現を目指そうと「地域力向上事業」に取り組んでいます。



- 令和元年には、南区地域力向上事業として「育ち合う地域をつくる こどもと遊び実践塾 2019」を

■南区役所をジャックして遊ぼう！

開催しました。その中で、『南区役所をジャックして遊ぼう！』として、文字どおり南区役所を貸し切り、ダンボールや木材を使って工作をしたり、駐車場にチョークでお絵かきをしたりして遊びました。

★木俣雅代さん（子どもの遊び場応援団「あそぼんび」代表）

## 取組紹介

### オール浜松で防潮堤整備

- 甚大な津波被害が予想される南海トラフ大地震に備え、防潮堤の整備が必要として、浜松市が創業地である一条工務店は300億円の寄付を行いました。平成24年6月に、静岡県、浜松市、一条工務店は、浜名湖から天竜川河口までの約17kmにかけて、県が防潮堤整備を行うことで基本合意し、県は寄付金を原資に整備を実施しました。



■カワラハンミョウの観察、クロマツ・広葉樹の植栽

- 安全・安心をもたらすだけでなく、より良い地域づくりに役立つ「付加価値の高い」整備を目指して、地域の「原風景」を再生する自然環境対策や松枯れに強い松林・松と広葉樹の混交林の再生の取組、市の天然記念物であるアカウミガメが安全に産卵できる砂浜を確保するためのウエルカメグリーン作戦（清掃活動）等を実施しています。

★内山晴芳さん（一般社団法人日本造園建設業協会 静岡県支部長）



# 3 みんなのやりたい！をカタチにする

## 3-1 みんなのやりたい！が持続可能なまちをつくる

- 本計画は、市民一人ひとり、あるいは、個々の事業者が、みどりとのかきあひ方をライフスタイルや事業活動にまで高めることで「みどり生活を愉しむ」（プライベートアプローチ）、みどりが有する多様な役割・機能を最大限引き出し、発揮させることによって「みどりによってまちづくりの課題の解決に貢献する」（パブリックアプローチ）という2つのアプローチにより、『みどりによって持続的に発展するまち・浜松 みどり生活を愉しむ、暮らしもまちも豊かな浜松へ』の実現を目指すものです。
- 特に、「みどり生活を愉しむ」アプローチは、前述のとおり、みどり生活を愉しむことで地域が元気になり、持続可能なまちづくりにつながるため、**行政が課題を解決するスタイルから、地域で課題を解決する（＝課題が生まれにくい）スタイルへの転換**が期待されます。
- このように、市民一人ひとりが自分なりのみどり生活を描き、それを愉しむこと、そこで一緒に愉しむ仲間ができたり、愉しみ方を共有したり、広めたりすることは、より大きな効果を生み出します。そこで、本計画では、**市民の皆さんのこんなみどり生活を愉しみたい、やりたい！という想いを大切に、それを全力で後押ししていくこと**とします。

## 3-2 この指とまれプロジェクト

- 前述のとおり、本計画では、市民の皆さんのこんなみどり生活を愉しみたい、やりたい！という想いを大切に、それを全力で後押ししていきます。
- 本計画は、「浜松市緑の基本計画策定委員会」（「資料編」の「2 策定経過」を参照）として、市民であり、みどり生活の実践者の方々に集まっていただき、検討を重ねてきました。その中で、本市のみどりの現状やまちづくりの課題を踏まえ、計画期間中に取り組んでみたいプロジェクトを検討してきました。プロジェクトのアイデアは多岐にわたり、実現にあたっては、市民・事業者の皆さんのご理解とご協力、さらなるアイデアが必要であると考えています。
- そこで、**プロジェクトのアイデアとして出たものを「この指とまれプロジェクト」として示します。プロジェクトに関心がある、関わってみたい、こんなアイデアがあるという方がいれば、ぜひ一緒に取り組みましょう。**
- なお、市民の皆さんの「みどり生活を愉しみたい、やりたい！」や「この指とまれプロジェクトに参加したい！」を全力で後押しするための推進体制は、「推進体制編」に示しています。

この指とまれ!

## 耕作放棄地活用プロジェクト

- 耕作放棄地を市民農園として活用することで、地域住民の農業体験の場、身近にみどりと触れ合う場、コミュニケーションの場づくりを目指します。
- （仮称）浜松市版カシワ制度の創設・運用により、耕作放棄地を使ってもらいたい土地所有者と、市民農園として利用したい市民・事業者とのマッチングを行うなど、有効活用を図ります。



この指とまれ!

## 浜松版ウッズスタートプロジェクト

- 小さい頃から木のぬくもりを知ること、将来的に自然やみどりに目を向ける可能性が高くなると期待できます。
- 子供の生活の中に木のぬくもりを取り入れられるよう、木のおもちゃや、子供たちが手で触れるところに木材（天竜材）を積極的に使うようにしていきます。



この指とまれ!

## ネイチャーツアープロジェクト

- 北遠の広大な山地部を活用する手段の一つとして、湖西連峰から入り、寸座を通って富塚山から天竜の山へ、そして、水窪の野鳥の森へネイチャートレッキングをする企画など、多様なツアーを企画します。



取組紹介

## 椎ノ木谷保全の会

- 椎ノ木谷保全の会は、佐鳴湖（新川）の上流域にある富塚町椎ノ木谷地区の貴重な自然環境を、浜松市民の財産として守り、次世代に残していくため、市民が主体的に保全活動を行うことを目的として設立しました。
- 植林地の手入れ、水田・畑地の耕作、竹林の管理、外来種の駆除といった里山保全活動のほか、緑の広場や森の中のネイチャーゲームを通して、自然に触れ、自然を知り、自然を大切にすることを育む「椎ノ木谷キッズ」、地域の小学校や公民館などを対象とした自然観察会など、様々な活動を行っています。



■自然観察会、椎ノ木谷キッズ

★小杉正則さん（椎ノ木谷保全の会 幹事）

この指とまれ!

## 公園の使い方提案プロジェクト

- 子供たちが公園での遊び方や魅力、友だちや大人に伝えたいことを調べ、体験し、公園の使い方を提案します。子供たちの提案を受けて、公園の利用ルールを考えます。
- 公園だけでなく、市内のみどりの、子供目線での（みどり生活の）楽しみ方を提案し、市内外に発信します。



この指とまれ!

## 公園リニューアルプロジェクト

- 地域の様々な主体が参加でき、特定の公園について話し合える場をつくれます。その上で、時代のニーズに沿った公園リニューアルを地域住民、事業者、行政との協働で進めます。
- 公園リニューアルは、長年親しまれてきた個性的な施設や大きく育った樹木など公園の資産を活用することで、地域の記憶を次代に受け継ぎ、子供からお年寄りまで多くの人々に愛される新たな公園に変えられます。



取組紹介

## アメイジングガーデン・浜名湖

- 国は、平成 31 年 4 月、地域の活性化と庭園文化の普及を図るため、「庭園間交流連携促進計画登録制度（ガーデンツーリズム登録制度）」を創設しました。
- 浜名湖周辺は、日照時間が長く温暖な気候であることから花卉栽培が盛んで、日本庭園も多く点在しており、平成 16 年の「浜名湖花博」を契機に、平成 27 年からは毎春に「浜名湖花フェスタ」を開催するなど、複数の花の名所が連携したイベント等を行っています。
- 今回、はままつフラワーパークや浜名湖ガーデンパーク、龍潭寺をはじめとする花の公園及び日本庭園が連携し、「アメイジングガーデン・浜名湖」としてガーデンツーリズム登録制度に登録されました。花の公園や日本庭園と、食・グルメ、温泉、サイクリング等のアクティビティなどを組み合わせ、お客様に“感動”を提供するガーデンツーリズムを展開し、日本の花と庭園観光の中心地を目指していきます。



■アメイジングガーデン・浜名湖共通入場券

★塚本こなみさん（公益財団法人浜松市花みどり振興財団 理事長）

この指とまれ!

## 森林ヒーリングプロジェクト

- 個人や企業のメンタルヘルスケアとして、天竜の森林の中でリフレッシュしてもらおうプログラムを開発し、展開します。
- 森林の近くにサテライトオフィスを設置し、活用してもらいます。



この指とまれ!

## みどりのオーナーシッププロジェクト

- 田んぼオーナー制度や森林オーナー制度を創設し、田んぼや森林の維持管理を通じて、自然との触れ合いの場の提供や、郷土愛の育成につなげていきます。
- 田んぼや森林の維持管理に必要な知識・技能に関する講習会等を開催します。



取組紹介

## NPO 法人 ひずるしい鎮玉

- NPO 法人 ひずるしい鎮玉は、浜松市北区引佐町の、的場四方浄、田沢、別所、久留女木地区を中心に活動しています。この地区には、静岡県西部一のホタルの生息地となるほどの豊かな自然環境、久留女木の棚田に代表される里山環境、国重要指定文化財である鈴木家住宅などの歴史的建造物も数多く残されています。一方で、少子高齢化や、それに伴う耕作放棄地の増加、農地や山林の荒廃が懸念されています。
- ひずるしい鎮玉では、鎮玉地域が、多くの人が集まる魅力あふれる地域となることを目指して各種事業を展開しています。「田んぼオーナー」による遊休農地を活用した米づくり、川遊びをしながら自然を体感する「鎮玉リバーリンピック」の開催など、本市ならではの「みどり生活を愉しむ」を実践しています。



■ 田んぼオーナー、鎮玉リバーリンピック

★ 廣瀬稔也さん (NPO 法人ひずるしい鎮玉 事務局長)

この指とまれ!

## みどりでまちなかデザインプロジェクト

- JR 浜松駅北口広場、アクト通り、鍛冶町通りを含む都心エリアにおいて、みどりによるまちなかデザインコンペを開催し、コンペで選ばれた提案を基に、少しずつまちのイメージチェンジを図ります。
- コンペの開催を通じて、若手ランドスケープデザイナー、植栽デザイナーの発掘を行ったり、花・緑の人材育成につなげます。



この指とまれ!

## ガーデンツーリズム推進プロジェクト

- 地域の活性化と庭園文化の普及を図るために国が創設した「ガーデンツーリズム登録制度」に、浜名湖及び静岡県西部地域における花の公園及び日本庭園で構成する「アメイジングガーデン・浜名湖」が登録されました。
- 花の公園及び日本庭園と、食・グルメ、温泉、サイクリング等のアクティビティなどを組み合わせて、訪れる人に“感動”を提供し、「日本の花と庭園観光の中心地」を目指します。



■花めぐり集印帳

### 取組紹介

## NPO 未来化プロジェクト

- NPO 未来化プロジェクトは、平成 26 年、地域の社会課題に強い危機感を持つ有志が集まり、未来に向けてすべきことは「人づくり＝人財育成」と考え、浜松市を中心に地域を盛り上げていく人財の発掘と育成を目指して設立されました。
- 未来化プロジェクトでは、起業に必要な 3 つの要素「ヒト（人財育成）」「コト（連携育成）」「モノ（創造設計）」を総合的に支援しています。これまでに、624 人が講座を受講し、219 事業の伴走支援を行っており、講座の OB・OG は、社会課題に取り組む NPO、大学専任講師、独自ノウハウで輝く個人事業主など、幅広く活躍しています。
- 未来化プロジェクトの人財育成は、世界共通目標である SDGs（持続可能な開発目標）に沿った取組として、「地域の未来を創造する人づくり、場づくり」につながっています。

■未来化プロジェクト講座の様子

★川端務夢さん（NPO 未来化プロジェクト 理事）



～市民の皆さんへ～

## 「公園革命」を目指して

浜松市緑の基本計画策定委員会 委員長 進士 五十八

正にいま日本の地方は、地域の元気や市民生活の小さな豊かさにさえ不安があり、有効な手がうたれていない。多くの日本人は高度経済成長期の夢から醒めていないようだ。あらゆる制度や施策に既得権は維持されるべきだという既往の常識がつきまとう。このままで大丈夫、何とかなる、いずれまたよくなるだろうという楽観的態が続いているのである。単的に言えば、(街区)公園には子どもの遊具があるだけであって、若者にはさほど魅力はないし、地域の美観などにも貢献していない。凡そ、公園というものにドキドキ感や憧れは感じられない。ところが、公園なんてそういうものだ、と大体の市民は感じていて、それをもっと魅力的なものにしよう！できれば街も良くなるのに！とは行政マンも住民も感じていない。果して、これでどうするのか。

もちろん街区公園ではそうであっても、都心地区などでの公園や特殊公園などでは、多勢の人を集め活性化している公園も少なくない。しかし、多くは「既成の公園像プラス若干の工夫」によるようなもので、例えば「文明としての公園」から「文化としての公園」への脱皮、「公共・公物管理公園」から「魅力・儲かる公園」への進化等、パラダイムシフトを強く求められるようなことには議論を発展させない。果してそれでよいのか。

公園行政では、これまで公平・公正・皆んなのという「公共性 (public)」が強調されすぎていた。公共性は大切だが、公園利用者はそれぞれ個人であったり、ファミリーであったりする。実際にはコミュニティ全員を単位として公園をつかうということは例外的である。節度ある公園空間のパーソナル利用、たとえば公園の草木や場所に一人々々の住民の親しみある関係性－インテリマート・プレイス、マイベンチを肯定すべきであろう。わかり易くいえば、ほんとうの公園の利活用には、「みんなの公園」以上に「私の公園」感覚が付与されて当然ではないか、との考え方が出されるべきだといいたい。

私はこれまで数多くの「公園利用考現学・マンウォッチング調査」を実践してきた。公園利用の現場で最もいい顔は、公園でありながら、その場面はまったくの“プライベート・スペース”に変質していることである。

公園は、みんなの公園だが「みんなの庭」でなければいけない。そして「私だけの庭」だと本人が感じるような空間質や調えが求められて構わない、と考えるべきだと思うのである。

公園を都市計画施設として管理するのは、法律上の視点だが、一般市民や一般商業者には、緑や花があり楽しそうに人の集まる広場でしかないのだ。「都市計画施設」であるが、「都心のランドマーク・都市の顔」であり、「都市民の交流・交歓のイベントスペース」であり、住区にあっては「市民生活福祉施設」であり、学校にとっては「環境教育施設」であり、時に「文化の森・歴史の森」でもある。

地域や地方に残る昔からの名所などは、全国区の観光資源であり、公園はその拠点としても大きな舞台となる。このように、何でもあり何でも期待してよい場所と空間だと思いたい。一般市民の要求を大いに肯定する公園観を持ってもいいのだというくらいまで「公園に対する意識改革」をすすめることが公園革命なのである。

(「平成 30 年度 公園緑地研究所調査研究報告」(一般社団法人日本公園緑地協会 公園緑地研究所) より一部要約)